

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



新潟高等學校一覽
甲號
自大正十四年
至大正十五年

283-304



新潟高等學校一覽 甲號

自大正十四年
至大正十五年

目次

沿革

第一創立

第二開校

新潟高等學校學則

生徒心得綱領

細則

職制及處務規程

二 試驗進級卒業轉科轉類規程

三 生徒心得

四 制服規程

○目次

發行所贈本

大正
14. 5. 20
寄贈

正二 四三 四四 四二 三一 三二 三七 三五 〇 二六 二八 二一 二三

○目次

五	學級總代規程	二五
六	通學生規程	二六
七	寄宿舎規程	二六
八	自修寮規程	二八
九	寮生規約	三〇
一〇	寄宿舎警火規程	三三
一一	寄宿舎非常手配規程	三三
一二	圖書ニ關スル規程	三三
一三	物品會計規程施行細則	三七
一四	非常警備ニ關スル規程	四二
一五	宿直心得	四四
一六	文書處理及保存規程	四七
一	第一回入學式學校長訓示	五二

一	新潟高等學校校友會規程	六〇
一	新潟高等學校校友會會計規則	六四
一	職員表	六七
一	現在生徒府縣別表	七二
一	卒業生卒業後ノ狀況	七六
一	校友會役員	七八
一	生徒委員	八〇

○目次

新潟高等學校一覽

甲號

沿革

一、創立

明治ノ初年一度設ケラレタ新潟學校カ廢セラレテカラ、當地方ニ於テ高等專門ノ教育機關ニ入ル門戶ヲ失ツテ、實ニ五十年ニ垂ントシタノデアツタ、明治十九年四月勅令第十五號ヲ以テ中學校令ヲ公布セラレ、同年十一月文部省告示第三號ヲ以テ高等中學校ノ設置區域ヲ定メラレ、新潟縣ハ其第四區ニ指定ノ上第四高等中學校ノ區域ニ編入セラレ、第四高等中學校ノ金澤ニ置カレタ際直ニ篠崎縣令ヲ首トシテ當地方ノ官民一致ノ高等中學校設置運動トナツタカ其目的ヲ達セラレナク、明治二十一年度ニ於テ新潟縣ハ右設置區域負擔額金六千三百六拾壹圓參拾八錢七厘ヲ議決支出シタノデアツタ、

次テ明治三十二年全國ノ學事進歩ノ結果、諸學校令ノ改正トナリ再ヒ高等學校設置ノ運動カ起ツタトキ新潟縣ハ臨時縣會ニ於テ創設費金參拾萬九千圓ノ寄附ノ議決ト內務大臣ヘノ

建議トナツテ新潟縣ニ於ケル高等學校設置ノ濫觴トナツタカ長野縣トノ位置爭奪ノ結果不幸兩縣共挫折シタ、其後明治四十五年度ニ於テ文部當局ニ於テ信越地方ヲ撰擇シテ高等中學校ヲ新設スルノ議カアツタ時ニ縣會ハ速カニ新潟縣ニ設置セラレタキ意見書ヲ内務大臣ニ提出シタカ、タマタマ大正五年學制改革問題ノ進行ニ伴ヒ、高等教育機關増設ノ議起ツタトキ、更ラニ地方官民一致ノ高等學校設立ノ運動起リ縣市教育會ノ意見書提出トナリ十二月新潟縣會ノ議決ヲ以テ高等學校設立ニ關スル意見書ヲ内務大臣ニ提出シテ、大正七年五月新潟市ニ設立ニ確定シタノテアル

斯クテ大正七年十二月新潟縣會ニ於テ設備費金四拾九萬六千貳百圓寄附ノ議決ヲナシ、新潟市會ニ於テモ敷地(二萬四拾七坪七合)全部ノ寄附ノ申請ヲナシ後ニ政府ノ追加豫算トナリ大正七年ヨリ工ヲ起シテ、大正八年四月新潟高等學校ノ官制ノ制定ト共ニ遂ニ其實現ニ至ツタノデ、實ニ新潟高等學校ノ設置運動ノ始メテ起ツテカラ三十餘年來ノ新潟縣地方官民ノ努力ノ結果デアアル。

二、開校

大正八年

四月十四日勅令第百十二號ヲ以テ文部省直轄學校官制ヲ改正シ同日勅令第百十三號ヲ以テ新潟高等學校職員ノ定員ヲ校長一人、教授十六人、書記三人ト定メラル

四月十五日公立中學校長(東京府立第三中學校長)八田三喜本校教授ニ任シ學校長事務取扱ヲ命セラル

四月十六日文部省令第十三號ヲ以テ新潟縣新潟市ニ新潟高等學校ヲ設置シ九月ヨリ授業開始ノ件並ニ同日文部省告示第百十九號ヲ以テ本校事務所ヲ文部省内ニ設置ノ旨告示セラル

五月廿四日文部省告示第百五十九號ヲ以テ本校事務所ヲ六月一日ヨリ新潟縣新潟師範學校内ニ移ス旨告示セラル

七月十一日ヨリ十四日迄入學選抜試験ヲ施行シ同月廿八日生徒百六十名ノ入學ヲ許可ス

九月十日文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則ヲ定ム

九月十一日ヨリ授業ヲ開始シ假寄宿舍ヲ二ヶ所ニ設ケ第一寮(新潟縣衛生會建物)第二寮(民家)ト稱ス

同月制服規程、學級總代規程、通學生規程、假寄宿舍規程、生徒心得綱領、生徒心得、生徒成績考查規程、圖書規程、試験進級卒業規程ヲ定ム

十月本校職制及處務規程ヲ定ム

十一月非常警備ニ關スル規程、宿直心得ヲ定ム

大正九年

三月文部大臣ノ許可ヲ受ケ物品會計規程施行細則ヲ定ム

五月三十一日勅令第百八十號ヲ以テ本校職員定員中教授二十人、書記四人、助教授一人ト改正セラル

六月十二日學校長事務取扱教授八田三喜本校長兼教授ニ任セラル

六月十四日文部大臣ヨリ學則中追加ノ件許可セラル

七月十一日ヨリ十四日マデ入學選抜試験ヲ施行シ生徒百三十八名ノ入學ヲ許可ス

七月假寄宿舍ノ内第二寮ヲ閉鎖ス

八月二十二日新築校舍(西大畑町字濱浦)へ移轉ス

八月三十日新築校舍ヲ開始ス

九月六日文部省告示第四百十號ヲ以テ本校ノ事務ヲ新潟市西大畑町新潟高等學校ニ取扱フ旨告示セラル

九月七日假寄宿舍第一寮ヲ新潟高等學校寄宿舎東寮ト改稱ス

九月八日文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則ヲ改正ス

九月制服規程、生徒心得、及試験進級卒業規程ヲ改正シ假寄宿舍規程ヲ廢シ新ニ寄宿舎規程ヲ定ム

九月二十日宿直心得中ノ一部ヲ改正ス

十月二十五日教育ニ關スル勅語謄本ヲ下賜セラル

大正十年

三月十八日ヨリ二十二日マデ入學選抜試験ヲ施行シ生徒百四十二名ノ入學ヲ許可ス
三月三十日勅令第五十號ヲ以テ本校職員定員中教授二十五人助教四人書記五人ト改正
セラル

大正十一年

二月一日文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中ヲ改正ス
三月十日第一回文科五十九名理科五十一名卒業ス
三月十八日ヨリ二十二日マテ入學選抜試験ヲ施行シ生徒百五十名ノ入學ヲ許可ス
六月一日本校落成式ヲ舉行ス
十月二十日天皇皇后兩陛下御眞影並皇太子殿下ノ御影ヲ拜戴ス

大正十二年

三月八日第二回文科五十八名理科四十九名卒業ス
三月十八日ヨリ二十二日マテ入學選抜試験ヲ施行シ生徒百三十一名ノ入學ヲ許可ス
三月二十一日校友會規則中改正

六月二日創立記念學術講演會ヲ開ク

十二月廿一日校友會規則中改正

大正十三年

二月十九日文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中ヲ改正ス
三月五日圖書ニ關スル規程中改正
三月八日第三回文科七十名理科五十四名卒業ス
三月十八日ヨリ二十二日マテ入學選抜試験ヲ施行シ生徒百四十名ノ入學ヲ許可ス
六月二十八日開校記念第二回學術講演會ヲ開ク

大正十四年

三月二日文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中ヲ改正ス
三月九日第四回文科五十四名理科五十八名卒業ス

新潟高等學校學則

（大正八年九月制定 大正九年六月追加
大正九年九月改正 大正十一年二月改正
大正十三年二月改正 大正十四年三月改正）

第一章 學年學期及休業日

第一條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 學年ヲ分チテ左ノ二學期トス

第一學期 四月一日ニ始マリ十月十五日ニ終ル

第二學期 十月十六日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第三條 休業日左ノ如シ

日 曜 日

大祭日祝日

開校記念日

夏期休業

冬期休業

自七月十六日 至八月三十一日

自十二月二十五日 至一月十日

春期休業

自三月十一日 至四月十一日

第四條 式日ハ左ノ如シ

天長節祝日

一月一日

紀元節

開校記念日（六月一日）

第五條 式日ニハ職員及生徒學校ニ參集シ所定ノ式ヲ行フ

第二章 學 科

第六條 本校ノ學科ハ大正八年文部省令第八號所定ノ高等學校高等科文科及理科トス

第七條 前條各科ノ學科目中外國語ハ英語及獨逸語トス

第三章 課程ノ修了及卒業ノ認定

第八條 每學期一回ツ、成績考査ノ爲メ指定ノ日ヲ以テ試験ヲ行フ

第九條 各學科目ノ學期成績ハ每學期行フ試験ノ評點ニ平素ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム

試験ヲ缺キタル學科目ノ學期成績ハ平素ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第十條 各學年ノ課程ノ修了ハ每學期ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

第十一條 卒業成績ハ各學年修了ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

第十二條 各學科目ノ成績評點ハ十點ヲ以テ滿點トス

第十三條 各學年成績及卒業成績ハ各學科目五點以上ニシテ平均六點以上ヲ合格トシ進級又ハ卒業セシム

前項ノ規定ニ該當セザルモノト雖モ詮衡ノ上特ニ進級又ハ卒業セシムルコトアルヘシ

第十四條 試験ヲ行ハサル學科目ノ成績ハ平素ノ成績ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 學期成績ヲ缺キタル學科目ノ學年成績ハ其ノ學科目ノ他ノ學期成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第四章 生徒ノ入學、退學、休學及懲戒

第十六條 入學ノ期ハ每年學年ノ始メトス

第十七條 入學志願者ノ手續及選抜試験ニ關スル規定ハ每年別ニ之ヲ定ム

第十八條 入學檢定料ハ金五圓トス

一旦納付シタル檢定料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ還付セス

第十九條 入學ノ許可ヲ受ケタルモノハ指定ノ期日迄ニ入學料ヲ納付スヘシ

第二十條 疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ退學セントスル時ハ其ノ事由ヲ詳記シテ本校ニ願出ツヘシ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ除名ス

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ理由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

六 授業料ノ怠納十五日以上ニ及フ者

七 同一學年ニ在學滿二箇年ヲ越ユル者（陸海軍兵役ニ服シタル者及成業ノ見込充分ナ

ルモノニシテ特別ノ事情アルモノハ此ノ限リニアラス

第二十二條 願ニ依リ退學セルモノニシテ退學シタル時ヨリ一箇年以内ニ入學ヲ願ヒ出ツル時ハ詮議ノ上原學年ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十三條 疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニ依リ三箇月以上修學スルコト能ハサル見込ノ者ニシテ休學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ(疾病ナラハ醫師ノ診斷書ヲ添付シ)願出ツル時ハ詮議ノ上其ノ學年間休學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十四條 陸海軍ノ兵役ニ服スル者ハ其ノ服役中休學ヲ許可シ滿期ノ時ハ原學年ニ復セシム

第二十五條 生徒ノ本分ヲ缺キタルモノハ其ノ輕重ニヨリ謹慎停學又ハ退學ニ處ス

第五章 授業料及入學料

第二十六條 授業料ハ一學年金六拾五圓トス但シ大正十一年三月迄ニ入學シタル者ニ在テハ金四拾圓大正十四年三月迄ニ入學シタル者ニ在テハ金五拾圓トス

授業料ハ二期ニ分チテ之ヲ徵收ス

各期ノ徵收金額及其徵收期日左ノ如シ

期	金額	徵收期日
第一期	金參拾五圓	大正十四年四月 以降入學者 大正十四年三月迄 ニ入學シタルモノ 大正十一年三月迄 ニ入學シタルモノ
第二期	金參拾五圓	自四月廿五日 至十月廿九日

第二十七條 轉學又ハ再入學シタル者ノ授業料ハ其ノ學期ニ於テ納付スヘキ分ヨリ之ヲ徵收ス

第二十八條 陸海軍兵役ニ服スルタメ休學ノ許可ヲ得タル者ノ授業料ハ之ヲ徵收セス但學期始業後授業料徵收期日前ニ服役スル者並授業料徵收期日後ニ復校スル者ニ對シテハ其ノ學期ニ於テ納付スヘキ分ヲ徵收ス

第二十九條 退學又ハ除名ノ場合ニ於テモ其ノ學期ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

第三十條 休學ヲ許可シ又ハ登校ヲ差止タルトキト雖モ特別ノ規定アル場合ノ外ハ授業料ヲ減免セス

第三十一條 授業料ノ怠納三日以上ニ及フ者ハ其ノ登校ヲ差止メ其ノ怠納十五日以上ニ及

フ者ハ第二十一條第六號ニ依リ除名ス

第三十二條 入學料ハ金參圓トス

第六章 寄宿舎及自修寮

第三十三條 新ニ入學セル本校第一年度生徒ハ寄宿舎ニ入ルヘキモノトス但自宅通學ノ止

ムヲ得サル事情アルモノハ審査ノ上通學ヲ許スコトアルヘシ寄宿スヘキ生徒數所定ノ員

數ヲ超過スルトキハ通學ヲ命スルコトアルヘシ

第三十四條 寄宿生ハ猥リニ退舎スルコトヲ許サス

第三十五條 寄宿生ニシテ疾病ニ罹リタルトキ其ノ種類又ハ症狀ニヨリ期ヲ限リ退舎又ハ

外泊セシムルコトアルヘシ

第三十六條 寄宿生ハ寄宿料トシテ毎月金一圓五十錢ヲ納付スヘシ但八月ヲ除ク

寄宿料ノ納付期日ハ毎月一日ヨリ七日迄トス但一月四月及九月ハ十五日迄トス

寄宿料ノ怠納者ニ對シテハ授業料怠納ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十七條 寄宿生ハ毎月七日迄ニ前月分ノ食料ヲ支拂フヘシ

第三十八條 生徒若干名共同シテ一家屋全部ヲ借受ケ自炊ヲナストキハ之ヲ自修寮トナシ
相當ノ補助ヲナスコトアルヘシ

附 則

本學則實施ニ必要ナル規定ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本學則中第一章第三條第四條第四章第二十一條第二十二條ハ大正十三年三月一日ヨリ之ヲ
施行ス

生徒心得綱領

本校生徒タルモノハ左ノ條々ヲ體得シ實質剛健ノ氣風ヲ養成スヘシ

- 一 自由自治ノ精神ニ基キ責任ヲ重ンスヘシ
- 一 親愛ノ情ヲ厚ウシ協同ノ實ヲ擧クヘシ
- 一 進取ノ氣象ヲ鍊リ向上ヲ計ルヘシ

細 則

一、職制及處務規程

本校ニ於テ職制及處務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 教 頭 教授一名ヲ教頭トス

教頭ハ各課ヲ統ヘテ其ノ事務ヲ監督ス

教頭ハ校長事故アルトキハ學校長職務規程第二條ニ準シ其ノ事務ヲ代理ス

二 校務分課 校務ヲ教務、生徒、圖書及庶務ノ四課ニ分ツ各課ニ課長一名及課員若干

名ヲ置キ本校職員ヨリ學校長之ヲ命ス

各課長ハ其ノ課員ヲ統ヘテ其ノ課ノ事務ヲ處理ス

各課長ハ學校長ノ許可ヲ受ケテ其ノ課ニ係及主任ヲ定メ其ノ分掌ヲ定ムルコトヲ得

三 教務課 教務課ニ於テハ學科ノ教授及研究ニ關スル事務ヲ處理ス

一學科目若ハ數學科目ヲ合セテ學科主任ヲ置ク

學科主任ハ其ノ學科目ノ課程及教授ニ關スル事務ヲ處理ス

學科主任ハ處務ニ關シテハ教務課ニ屬ス

四 生徒課 生徒課ニ於テハ生徒ノ訓育及監督ニ關スル事務ヲ處理ス

學級及學寮ニ主任ヲ置ク

學級若ハ學寮ノ主任ハ其ノ學級若ハ學寮ニ關スル事務ヲ處理ス

學級若ハ學寮ノ主任ハ生徒課ニ屬ス

五 圖書課 圖書課ニ於テハ圖書ノ保管出納及閱覽ニ關スル事務ヲ處理ス

特別教室其ノ他圖書室以外ニ於ケル圖書ノ分掌者ハ其ノ事務ニ關シテハ圖書課ニ屬ス、

六 庶務課 庶務課ニ於テハ人事文書記録會計用度營繕及雇傭其ノ他一切ノ庶務ニ關

スル事務ヲ處理ス

其ノ他ノ課ニ於ケル分管ノ物品文書記録ニ關シテハ其ノ分管者ハ庶務課ニ屬ス

七 評議會 教頭、課長及特ニ學校長ヨリ指名シタル評議員ヲ以テ評議會ヲ組織ス

評議會ハ學校長之ヲ招集シ重要ナル事務ニツキテ諮詢ス

評議會ノ議事ハ協議體トス

- 八 教授會 教授及特ニ指名シタル職員ヨリ組織ス
教授會ハ必要アルトキニ學校長之ヲ招集シ其意見ヲ徵ス
- 九 協議會 各課ノ事務ニ關シ必要アルトキハ課外ノ職員ヲ加ヘテ協議會ヲ開ク
協議會ハ教頭或ハ課長ノ請求ニヨリ教頭之ヲ招集ス
- 十 委任權限 教頭及課長ノ專決ニ屬スヘキ委任權限ハ每學年ノ初メニ之ヲ定ム
委任權限内ノ事務ハ處理ノ後之ヲ學校長ニ報告スヘシ

一一、試驗進級卒業轉科轉類規程

- 一 每學期一回宛成績考查ノタメ學期試驗ヲ行フ
- 二 學期試驗時間割ハ試驗開始前一週間以内ニ揭示ヲ以テ告示ス
- 三 學期試驗以外ニ何レノ學期内ニ在リテモ擔任教官必要ト認メタルトキハ臨時試驗ヲ行フコトアルヘシ
- 四 學期試驗ハ其ノ學期内ニ於テ履習シタル課程若シクハ其ノ學年中ニ履習シタル課程ニツキコレヲ行フ

- 五 學科目ニヨリテハ學期試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ
- 六 學年ノ途中ニテ授業ノ終了シタル學科目ニアリテハ隨時學期試驗ヲ行フコトアルヘシ
- 七 各學科目ノ學期成績評點ハ學期試驗評點ニ平素成績評點ヲ參酌シテ之ヲ定ム
試驗ヲ缺キタル學科目ノ學期成績ハ平素ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ
- 八 平素成績評點ハ臨時試驗評點日課點及勤惰等ヲ參酌シテ之ヲ定ム但シ臨時試驗ヲ行ハサルモノハ日課點及勤惰ニヨリテ之ヲ定ム
- 九 學期試驗ヲ行ハサル學科目ノ學期成績評點ハ日課點及勤惰ニヨリテ之ヲ定ム
- 十 各學科目ノ學年成績評點ハ其ノ學科目ノ第一學期成績評點ト第二學期成績評點トノ合計點數ヲ二分シタル數ヲ以テ之ニアツ
- 十一 學期成績評點ノ一ヲ缺キタル學科目ノ學年成績評點ハ其ノ學科目ノ他ノ學期成績評點ト其ノ四分ノ一トノ合計點數ヲ二分シタル數ヲ以テ之ニアツ
- 十二 學期成績評點ヲ缺ク理由ニシテ正當ナラスト認ムル學科目ノ學年成績評點ハ他ノ學期成績評點ノ二分ノ一ヲ以テ之ニアツ

- 十三 卒業成績ハ各學年修了成績ノ各學科目ノ總計點數ヲ合計シタルモノヲ以テ席次ヲ定ム
- 十四 各學科目ノ成績評點ハ十點ヲ以テ滿點トシ五點以上ヲ及第トシ四點以下ハ落第トス
- 十五 各學年成績ハ各學科目五點以上ニシテ平均六點以上ヲ合格トシ進級又ハ卒業セシム
但前項ノ規定ニ該當セサルモノト雖モ詮衡ノ上特ニ進級又ハ卒業セシムルコトアルヘシ
- 十六 轉科轉類セントスルモノハ缺員アル場合ニ限り左ノ方法ニヨリ特ニ許可スルコトアルヘシ
 - 一 轉科轉類ハ同一學年若クハ其以下ノ學年ニ限ル但シ第一學年ヘノ希望者ハ凡テ入學選抜試驗ヲ受ケシム
 - 二 轉科轉類希望者ニ對シテハ從來ノ操行及學業成績ヲ考查シタル上一定ノ檢定試驗ヲ課ス
 - 三 轉科轉類希望者ハ毎年二月中ニ理由書ヲ添へ願ヒ出ツヘシ
 - 四 檢定試驗受験ノ許可ハ學年成績決定ノ後之ヲ決ス

三、生徒心得

- 第一條 登校ニハ制服制帽ヲ着用スヘシ
 - 第二條 指定ノ場所以外ニ於テハ喫烟スヘカラス
 - 第三條 掲示ヲナサントスルトキハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ
 - 第四條 集會ヲ爲サントスルトキハ代表者ヲ定メ日時、目的、場所、費用等ヲ具シテ前日マテニ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ
 - 第五條 生徒出版物ヲ發行スルトキハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ
 - 第六條 金員募集ニハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ
- 遅刻、缺課
- 一 起立禮ノ終了後ニ入場シタルモノヲ遅刻トス
 - 二 一時間又ハ連續シテ二時間以上缺席シタルトキハ缺課一回トス
- 諸願及届
- 一 生徒、缺席又ハ缺課スルトキハ其ノ當日ヨリ三日以内ニ事由ヲ詳記シ學級主任ノ檢印

ヲ得テ生徒課ニ届出ツヘシ但シ病氣缺席一週日ニ渉ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

二 忌服ノ爲メ缺席、缺課ハ缺席日數又ハ缺課回數ニ算入セス此場合ニハ前條ト同様ノ手續ヲ經テ生徒課ニ忌服届ヲ差出スヘシ

忌服日數左ノ通り

イ、父母ノ喪ハ七日以内 ロ、祖父母兄弟姉妹ノ喪ハ五日以内 ハ、其他ハ二日以内

三 生徒休學又ハ退學セントスルトキハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ親權者連署ノ上學校長宛ニ願出ツヘシ左ニ願書ノ一例ヲ示ス

休 (退) 學 願

何科何學年何學級

生徒 何 某

右者病氣ノ爲(家事ノ都合ニ依リ)修學致兼候ニツキ(本學年間休學致度退學致度)候間御許可相成度親權者連署ノ上此段御願申上候也

年 月 日

生徒 何

某 印

親權者

何

某 印

新潟高等學校長

殿

注意 諸願届ハ凡テ學校長宛トシ用紙ハ必ス半紙白紙ヲ用フルコト

休學又ハ退學ガ病氣ノ爲メナルトキハ必ス醫師ノ診斷書ヲ添付スルコト

四、制服規程

帽子

形式 海軍型

地質 黒絨若ハ濃紺紗

徽章 銀 色

白線 細リボン二條(幅二分)

耳 眞鍮製(本校徽章入)

腮紐 黒 革

○制服規程

徽 章



○制服規程

服

形式 立襟 背廣

地質 冬服、黒若ハ濃紺ヘル又ハ小倉(十月ヨリ五月マテ)

夏服、霜降小倉(六月ヨリ九月マテ)

鈕 黒煉物徽章入り

靴

外靴 短靴又ハ編上(黒革)

上靴 茶ズツク短靴

外套

形式 兩 前

地質 黒若ハ濃紺羅紗

鈕 徽章入黄金色眞鍮鈕

但黒若ハ濃紺羅紗ノマントハ之ヲ代用スルコトヲ得

略帽

形式 麥稈製普通形(縁約三寸、高約三寸)

鉢巻 黒地(幅約一寸七分)ニ白線二條(幅二分)徽章ヲ附スヘシ

着用期間ハ夏服用期間ニ同シ但儀式及體操ノ時ハ必ス制帽ヲ着用ス

脚絆

形式 卷脚絆或ハ短靴用卷脚絆

地質 綿布又ハ羅紗黒又ハ濃紺

五、學級總代規程

第一條 各學級ニ正副總代各一名ヲ置ク

第二條 學級總代ハ學級主任ノ指揮ノ下ニ其ノ學級ニ關スル諸般ノ要務ニ任スルモノトス

第三條 學級總代ハ各學級、生徒ノ互選ニ係ル正副各二名ノ候補者ニツキ校長之ヲ任命ス

第四條 學級總代ノ選舉及任命ハ各學年ノ始メニ行ヒ其ノ任期ハ一學年間トス

○學級總代規程

但第一學年ニアリテハ第二學期ノ始メニ行フ

六、通學生規程

第一條 通學生徒ハ宿所選定ノ日ヨリ三日以内ニ學級主任ノ承認ヲ經テ宿所届テ生徒課ニ差出スヘシ轉宿ノ時亦同シ

宿所届用紙ハ生徒課ニ於テ交附ス

第二條 通學生徒ニハ其ノ宿所ノ位置宿主ノ職業家庭ノ狀態又ハ其ノ他ノ事情ニシテ不適當ト認ムル時ハ他ニ轉宿ヲ命スルコトアルヘシ

七、寄宿舎規程

第一條 寄宿生ハ規約ヲ定メ校長ノ認可ヲ經テ之ヲ實行スヘシ

規約ヲ以テ定ムル事項左ノ如シ

- 一 舎内ノ秩序整頓及風俗ニ關スルコト
- 一 舎内ノ清潔衛生ニ關スルコト
- 一 炊事々務炊事監督ニ關スルコト

一 其ノ他必要ナル事項

第二條 各室人員ノ配當ハ生徒監之ヲ定ム

第三條 各寮ニ三名ノ委員ヲ置ク内二名以上ハ二年級以上トス

委員ハ各寮生徒ノ互選ニ係ル六名ノ候補者ニツキ生徒監之ヲ任命ス

委員ノ内ヨリ總務及副總務各一名ヲ互選セシム

第四條 各室ニ一名ノ總代ヲ置ク總代ハ其ノ室員ノ互選トス

第五條 總務、副總務、委員及總代ノ任期ハ一學期間トス

第六條 總務、副總務及委員ハ生徒監ノ指導ニヨリ舎内整理ノ責ニ任シ規約ノ實行ヲ督勵ス

第七條 寄宿生ハ門限後其ノ他隨時點檢ヲ受クルモノトス

點檢ノ方法ハ生徒監之ヲ定ム

第八條 外出時限ハ午前六時ヨリ午後十時マテトス(但シ翌日休業ナルトキハ午後十一時迄トス)

第九條 已ムヲ得サル事情ノタメ所定ノ時限外ニ外出セントスルモノハ豫メ委員ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 外出中已ムヲ得サル事情アリテ歸寮時ニ遅レタルモノハ翌日中委員ニ届出ツヘシ
第十一條 已ムヲ得サル事情アリテ外泊セントスルモノハ豫メ委員ノ承認ヲ得テ寮務係ニ届出ツヘシ

外出中俄ニ外泊セサルヘカラサル事情生シ前項ノ手續キヲナスコト能ハサルトキハ速ニ其ノ事由ト居所トヲ寮務係ニ届出テ歸寮ノ際委員ヲ經テ寮務係ニ届出ツヘシ

八、自修寮規程

第一條 本校生徒ノ相集リテ一家屋全部ヲ借リ入レ自炊生活ヲナスモノニシテ左ノ各號ノ

一ニ該當スルモノヨリ申出アル時ハ詮議ノ上之ヲ自修寮トナスコトアル可シ

一 七人以上ノ團體ニシテ一ヶ年以上繼續ノ見込アルモノ

生徒五人若クハ六人ノ團體ニシテ既往二年以上繼續シ成績良好ニシテ尙一ヶ年以上繼續ノ見込アルモノ

第二條 自修寮ニ充ツヘキ家屋ハ左ノ各號ニ該當スルコトヲ要ス

一 生徒七人以上ヲ收容シ得ルコト

二 空氣ノ流通飲料水ノ善良ニシテ衛生ニ適シ且料理店等風儀ヲ紊スモノニ余リ近カラサルコト

三 同家屋内ニ他ノ居住人ナク勉學ニ適スルコト

第三條 自修寮ニ對シテハ一人一ヶ月金壹圓五拾錢ノ割合ノ金額ヲ補助シ現在人員ニ依リ翌月上旬ニ於テ之ヲ交附ス

第四條 自修寮ニシテ團體員ニ異動アリタルトキハ其ノ氏名ヲ具シ速ニ代表者ヨリ生徒課ニ届出ツ可シ

第五條 第一條第一號ニ依リ設置シタル自修寮ニシテ人員減少スルモ五人以上ナルトキハ之ヲ繼續ス

自修寮ニシテ人員減少シ五人未滿トナリタルトキハ之ヲ廢止ス

第六條 自修寮ニシテ不都合アリト認ムヘキモノアル時ハ之ヲ廢止スルコトアルヘシ

○寮生規約

備考 自修寮ニ收容ス可キ總人員ハ本年ハ二十人ヲ以テ限度トス

三〇

九、寮生規約

第一條 吾等寮生ハ本校綱領ニ據リ質實剛健ノ氣風ヲ養成シ以テ校風發揚ノ中心タランコトヲ期ス

第二條 寄宿舍規程第三條ニ依リ舍内ニ左ノ役員ヲ置ク

總務一名、副總務一名、衛生委員、炊事委員各若干名

第三條 總務ハ委員ノ事務ヲ總理シ副總務ハ總務ヲ補佐ス

衛生委員ハ衛生ニ關シ炊事委員ハ炊事ニ關スル全般ヲ處理スルモノトス

第四條 舍内ノ秩序整頓及風紀ニ關スルコトハ全委員其ノ責ニ任スルモノトス

第五條 委員ハ交互ニ當番委員トナリ舍生ノ點檢ヲナスモノトス

第六條 各室ニ室員互選ニ係ル總代一名ヲ置ク總代ハ各室ノ取締ニ任シ且室員ノ意見ヲ代表スルモノトス

但シ其ノ任期ハ一學期間トス

第七條 委員及總代ハ特別ノ事情アルモノノ外辭退スルコトヲ得ス

第八條 點檢後歸寮シタルモノハ其ノ時刻及理由ヲ當番委員ニ通知スヘシ

第九條 舍生ノ守ルヘキ事項左ノ如シ

- 一 舍則ニ違背セサルコト
- 二 舍生ノ體面ヲ保ツヘキコト
- 三 飲酒セサルコト
- 四 規定ノ時間内ニ於テハ特ニ音讀ヲ禁シ他ノ妨害トナラサル様靜肅ニスヘキコト
- 五 濫リニ他人ノ室ニ立入ラサルコト
- 六 他人ノ安眠ヲ妨ケサルコト
- 七 唾沫、吸殻等ニ由リ室内及廊下ヲ汚穢セサルコト
- 八 外出ノ際ハ必ス制服、制帽又ハ袴ヲ着用スルコト
- 九 來訪者ノ面會ハ應接室ニ於テナスヘキコト
- 一〇 火元ニ注意スルコト

○寮生規約

三一

○寮生規約

三三

- 二 總テ器具ヲ紛失シ又ハ破損シタル時ハ辨償スヘコト
- 三 室内ノ整頓清潔ニ注意スヘキコト

第十條 食事ニ關スル注意事項

- 一 食堂内ニテハ相當ノ禮儀ヲ守ルヘキコト
- 二 病氣ノ外ハ自室内ニテ食事セサルコト
- 三 食事ハ規定ノ時間ニナスヘキコト
- 四 食事ノ良否ニ關スル事項ハ炊事委員ニ直接申出ツヘキコト
- 五 病氣等ノタメ粥等ヲ希望スルモノハ豫メ炊事委員ニ申出ツヘキコト
- 六 完全ニ三食ヲ欠食スルコトロ日ニ亘ル時ハ豫メ届出テアリタルモノニ限り一日定額ノ割合ニテローロ分ノ食費ヲ拂戻スヘシ
定額ハ物價ノ變動ニヨリ隨時之ヲ定ム

第十一條 以上ノ諸規約ハ今後之ヲ變更セントスル場合ニハ寮生大會ノ決議ヲ經テ生徒監ニ申告シ校長ノ許可ヲ受クヘキモノトス

一〇、寄宿舍警火規程 (省略)

一一、寄宿舍非常手配規程 (省略)

一二、圖書ニ關スル規程

第一條 本校所有ノ圖書ハ凡テ書庫ニ藏置ス

第二條 書庫ニハ亦便宜本校ノ借リ受クタル圖書及他ノ寄託ニ係ル圖書ヲモ保管スルコト

アルヘシ

第三條 擔任事務員ノ外猥ニ書庫ニ入ルコトヲ得ス

第四條 教官並ニ特ニ校長ノ許可ヲ得タルモノハ必要ノ場合書庫ニ入り圖書ヲ檢索スルコトヲ得但シ決シテ圖書ノ位置ヲ錯亂スルコトヲ得ズ

第五條 本校ノ職員及生徒其ノ他校長ヨリ特別ノ許可ヲ得タルモノハ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得

第六條 圖書閱覽室ハ左ノ期間毎日午前八時ヨリ午後九時マデ之ヲ開ク

- 一 四月十一日ヨリ七月三十一日マデ

○圖書ニ關スル規程

三三

二 九月一日ヨリ十二月二十四日マデ

三 一月十一日ヨリ三月十日マデ

但シ

一 式日祭日ハ閉室ス

二 日曜日ハ午後六時ヨリ午後九時マテ開室ス

三 七月十六日ヨリ三十一日マテハ午前八時ヨリ正午マテ開室ス

第七條 前條閱覽室開閉ノ期間及時間ハ臨時變更スルコトアルヘシ其ノ場合ハ揭示ヲ以テ之ヲ豫告ス

第八條 生徒ニシテ閱覽セントスルモノハ學年ノ始毎ニ檢印持參ノ上圖書課ニ就テ閱覽票ノ交付ヲ受クヘシ

第九條 生徒及特別閱覽者ニシテ圖書ヲ閱覽セントスルモノハ目錄ニツキ其ノ圖書ヲ檢出シ規定ノ用紙ニ一切ノ手續ヲナシ閱覽票ト共ニ掛員ニ差出スヘシ但シ時宜ニヨリ閱覽ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第十條 閱覽者ハ閱覽了レハ直ニ返納シテ閱覽票ノ還附ヲ受クヘシ

第十一條 第九條ノ手續ニヨリ借受セル圖書ハ總テ閱覽室外ニ携出シ又ハ他人ニ轉貸スルコトヲ許サズ

第十二條 閱覽者一人ニシテ一時ニ借覽シ得ヘキ圖書ハ洋裝ノモノ五冊以内、和漢裝ノモノ十冊以内トス但シ圖書課長ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ制限ヲ超過スルコトヲ得

第十三條 生徒ノ研究ニ便スル爲メ參考書ヲ生徒圖書閱覽室ニ備ヘ付ク第九條ノ手續ヲ要セス自由閱覽ニ供スルコトアルヘシ

第十四條 閱覽票ハ他人ニ轉貸スルヲ得ス

第十五條 閱覽票ヲ紛失シタル時ハ速ニ其ノ旨ヲ圖書課ニ届出テ更ニ交付ヲ請フヘシ

第十六條 各學科主任ハ參考上必要ノ圖書ヲ借受シ之ヲ特別ノ場所ニ備ヘ付ク其ノ科教官ノ共用ニ供スルコトヲ得、各課長ハ各課ニ於テ事務上必要ノ圖書ヲ借受シ之ヲ課室ニ備ヘ付ケテ使用スルコトヲ得

第十七條 教官ハ本校所藏ノ圖書ヲ參考用トシ一員二十冊其ノ他ノ職員ハ一員五冊ヲ限リ

(和漢裝ノモノハ其ノ冊數ヲ倍スルコトヲ得)借受携出スルコトヲ得、但シ必要ニヨリテハ其ノ貸出冊數ヲ増スコトヲ得

第十八條 貴重圖書寄託書借用書並ニ閲覧室備へ付ケニ缺クヘカラサル圖書等ハ借受携出スルコトヲ得ス、但シ校長ノ特許ヲ得タルモノハ此限りニ非ス

第十九條 圖書ヲ借受携出セントスルモノハ圖書課ニ就キ所定ノ手續ヲナスヘシ

第二十條 借り受ケタル圖書ハ使用了リタル時ハ速ニ返納スルハ勿論學年末マテニハ悉皆返納スヘシ、必要ノ場合ニハ臨時返納セシムルコトアルヘシ

第二十一條 共用借受ノ圖書ニ限り掛員出張ノ上點檢ヲ行フ

第二十二條 定期刊行ノ雜誌等ニシテ一般的ノモノハ校用ヲ除ク外到着ノ日ヨリ一週間ヲ過グルニ非サレバ借受携出スルコトヲ得ス

第二十三條 借受ケタル圖書ヲ紛失毀損又ハ汚染シタルモノハ會計法規ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ責ニ任ズ

第二十四條 凡テ本規程ニ違反シタルモノハ圖書貸附及閲覧ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十五條 特別閲覧者ハ圖書課ニ就キ特別閲覧票ノ交附ヲ受クヘシ

第二十六條 參考用トシテ職員生徒ノ閲覧ニ供スル目的ヲ以テ圖書ヲ寄託セントスルモノハ其ノ著譯者名、圖書名、裝訂別、冊數及見積價格ヲ具シ寄託期限ヲ定メテ校長ノ承諾ヲ受ケ然ル後現品ヲ本校ニ送致スルモノトス本校ハ之ニ對シ保管證ヲ交附ス

第二十七條 火災盜難其ノ他不慮ノ災難ニ依リ寄託圖書ニ損失ヲ來スコトアルモ本校ハ其ノ責ニ任セズ

一三、物品會計規程施行細則

第一章 總 則

第一條 本校所有ニ屬スル物品ハ學校長之ヲ管理シ其ノ保管及出納ハ物品會計規則及文部省直轄各部物品會計規定ニ基キ此細則ニ依リ處理スヘシ

第二條 物品ヲ大別シテ備品、消耗品ニ分チ備品ノ用途ヲ專用共用ノ二種トス但シ備品消耗品ノ種別ハ學校長之ヲ定ム

共用トハ各部ニ於テ共用スルモノヲ云ヒ專用トハ職員各自ニ專用スルモノヲ云フ

第三條 各部ニ於テ通常所要ノ物品ハ毎年度始メニ於テ其ノ員數ヲ豫定シ會計掛ニ通報スヘシ

但シ學術用機械標本等ニシテ豫定シ難キモノハ此ノ限リニ非ス

第二章 出 納

第四條 物品ノ出納ハ學校長ノ命令ニ依リ物品會計官吏之ヲ行フ

第五條 通常所要ノ物品ニシテ定數アルモノハ其ノ以內ニ於テ物品會計官吏直ニ之ヲ執行

シ臨時所要ノ物品ハ各部ノ請求ニ依リ學校長ノ決裁ヲ受ク後執行スヘシ

第六條 學術上機械ノ製作及修理ニ特種ノ注意ヲ要スルカ又ハ當業者ヲ選擇スル場合ハ便宜上各部ニ於テ當業者ノ見積書ヲ徴シ(外國製品等ニシテ見積書ヲ徴スル能ハサルトキハ之カ調書ヲ添付シ)會計係ニ請求スヘシ

第七條 物品會計官吏ニ於テ受入シタル物品ヲ支給セントスル時ハ普通備品ニアリテハ番號札ヲ現品ニ付シ共用品ト專用品トニ分チ備品支給簿ニ登記シ消耗品ニアリテハ消耗品出納簿ニ登記シタル後之ヲ物品監守者又ハ物品取扱主任者ニ配付シ受領ノ證トシテ帳簿

ニ捺印セシメ若クハ領收證書ヲ徴スヘシ

第八條 監守者若クハ取扱主任者ニ於テ物品ヲ受取リタル時ハ備品ニ屬スルモノハ備品監守簿消耗品ニ屬スルモノハ消耗品受拂簿ニ記入スヘシ

第九條 物品ノ不用ニ歸シタルモノアル時ハ直ニ之ヲ會計掛ニ返付スヘシ會計係ハ其ノ處分案ヲ具シ學校長ノ決裁ヲ經テ處理スヘシ

第三章 保管及監督

第十條 各部受入物品ハ一定ノ場所ニ藏置シ之ヲ毀損シ又ハ紛失セサル様注意スヘシ使用中ノ物品ハ時々修理ヲ要スルモノノ員數ヲ調査シ之カ請求ヲナスヘシ

第十一條 使用中ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ左ノ事項ニ依リ監督スヘシ

- 一 各學期一回以上消耗品支給簿ト現品ト照合スルコト
- 一 毎年一回以上備品支給簿及消耗品支給簿ヲ以テ各部ニ就キ現品ヲ査閲シ且各部ノ監守簿受拂簿ノ調査ヲナシ學校長ニ報告スルコト
- 一 前項ノ場合ニ於テ物品ノ亡失毀損ヲ發見シ又ハ其ノ使用上ニ付意見アル時ハ學校長

ニ其ノ處理ヲ求ムルコト

第十二條 共用備品ノ監守及消耗品取扱ノ爲各部ニ物品監守者及物品取扱主任者ヲ置ク但シ専用物品ハ各自之ヲ監守シ其ノ責ニ任スヘシ

第十三條 物品ヲ毀損シ又ハ紛失シタル時ハ物品監守者ニ於テ其ノ實況ヲ詳記シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ物品檢閲委員ノ合議ヲ經學校長ノ裁定ヲ得テ責任者ヲシテ之ヲ修理セシメ又ハ代品若クハ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス

第四章 檢 閲

第十四條 學校長ハ物品檢閲委員若干名ヲ設ケテ本校所有品ノ保管及使用ヲ檢閲セシムヘシ

但シ檢閲ヲ分チ定期臨時ノ二種トス

第十五條 定期檢閲ハ毎年六月乃至十月其ノ時日ヲ定メテ之ヲ施行シ臨時檢閲ハ臨時之ヲ施行スヘシ

第十六條 物品檢閲委員ノ檢閲スヘキ事項左ノ如シ

- 一 物品保管ノ適否
- 二 物品使用及消費ノ適否
- 一 物品缺損ノ有無
- 一 備品及消耗品ノ支給定數過不足
- 一 帳簿ト現品トノ對照

第十七條 物品檢閲ノ際ハ物品監守者又ハ物品取扱主任者其ノ席ニ列シテ檢閲ヲ受クヘシ

第十八條 物品檢閲委員ニ於テ檢閲上故障ナシト認ムル時ハ帳簿ニ捺印シテ之ヲ證スヘシ若シ故障アル時ハ當該責任者ヨリ始末書ヲ差出サシメ處分了ルヲ俟テテ前記ノ手續キヲナスヘシ

第十九條 物品檢閲ヲ終リタル時ハ其ノ顛末ヲ具シ意見ヲ付シテ學校長ニ申報スヘシ

第五章 帳 簿

第二十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納保管ヲ明確ニスル爲メ左ノ帳簿ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

一 物品出納簿

證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ及在庫並ニ使用物品ノ現在ヲ明ニス

一 備品支給明細簿

命令文書ニ基キ使用ニ供シタル物品ヲ記入シ所在ヲ明ニシ監守者ヲシテ受領ノ印ヲ押捺セシム

一 消耗品支給簿

命令文書ニ基キ支給ノ物品ヲ記入シ取扱主任者ヲシテ受領ノ印ヲ押捺セシム

第二十一條 各部ニ於テハ備品監守簿及消耗品受拂簿ヲ備ヘテ物品現存及受拂ヲ明確ナラシムヘシ

第二十二條 帳簿様式ハ別紙ノ通り相定ム

一四、非常警備ニ關スル規程

第一條 校内若ハ近傍ニ於テ火災其ノ他非常ノ事變アリタルトキハ電話又ハ其ノ他ノ方法

ヲ以テ直ニ學校長、教頭、各課長及學校附近所在ノ職員ニ報知スヘシ

第二條 非常ノ際ハ職員及生徒ハ直ニ駆付ケ左ノ任務ニ従事スヘシ

一 報 知 學校長、其ノ他第一條ニ掲クル職員、生徒監、寄宿舍、警察署へ報知スヘシ

二 消 防 消火器、消火栓、唧筒其ノ他適當ノ方法ニ依ルヘシ

三 運 搬 各室内非常持退ノ印シアルモノ、圖書、機械標本、其ノ他ノ器具

四 警 衛 門及ヒ其ノ他要所ニ高張提灯ヲ掲クルコト、職員及ヒ生徒ハ應援者ノ外
妄リニ構内ニ入ラシメサルコト、搬出品ヲ監守スルコト

第三條 非常用トシテ常ニ左ノ器具ヲ備付ケ且ツ其ノ所在及使用方法等ヲ一般ニ周知セシムヘシ

イ 消 火 器 ロ 輕便唧筒及水管 ハ 高張提灯

ニ 用 心 桶 ホ 其ノ他必要ノ器具

前項ノ器具ハ庶務課ニ於テ時々検査スヘシ

○宿直心得

四四

第四條 本校職員ノ住宅等火災ノ節又ハ其ノ虞アルトキハ本校生徒ヲシテ臨機應援セシムルコトアルヘシ

第五條 煙突ハ毎週所定ノ回數之ヲ掃除シ電燈線及瓦斯栓ニ異狀ヲ發見シタルトキハ直ニ絶緣器ヲ外シ其ノ旨各會社ニ急報スヘシ

第六條 火鉢煖爐等使用中ハ特ニ注意シ終業退廳後又ハ使用後ハ直ニ火氣及灰爐ヲ取除カシメ一定ノ場所ニ於テ之カ處置ヲナスヘシ

一五、宿直心得

第一條 執務時限外ニ生スル事務ヲ處理シ且ツ警備ニ任スル爲メ宿直ヲ置ク

宿直ノ時限左ノ如シ

- 一 平日ハ退廳時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ
- 二 休日ノ晝間ハ昇廳時刻ヨリ退廳時刻マテ及ヒ同夜間ハ退廳時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ但シ寮務係ハ平日ハ退廳時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ休日ハ昇廳時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ

第二條 宿直員ハ書記及事務員以下輪番ヲ以テ擔任スルモノトス但シ其ノ順番ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 第二條以外ノ職員ノ宿直ヲ必要ト認ムル場合ニハ學校長特ニ之ヲ命ス

第四條 宿直員ハ勤務中學校ヲ離ルルコトヲ得ス

第五條 宿直員ハ其ノ勤務中取扱ヒタル事件ヲ宿直日誌ニ認メ翌日庶務課長ニ申報スヘク若シ翌日休暇ナルトキハ交代ノモノニ必ス事務ノ引繼ヲナシテ退出スヘシ

第六條 左ノ各號ノ一ニ當ルモノハ宿直ヲ免ス

- 一 出張ノ前日及歸校ノ翌日
- 二 病氣缺勤中
- 三 賜暇ノ當日
- 四 忌引中
- 五 新任者ハ着任ノ日ヨリ起算シ七日目ニ於テ席次ニ編入ス
- 六 以上ノ外學校長ニ於テ除直スヘキ必要アリト認メタルトキ

○宿直心得

四五

○宿直心得

四六

第七條 宿直員ハ止ムヲ得サル事故ノ爲メ當日ノ勤務ニ差支アルトキハ同僚ヲ以テ代直ヲ立ツルコトヲ得

第八條 宿直員ハ宿直ノ際庶務課ヨリ左ノ物件ヲ受取ルヘシ

一 宿直日誌

二 諸室ノ鎖鑰

三 職員住所簿

四 電信用符號簿

五 宿直用郵便切手及發送簿

第九條 宿直員勤務ノ主要事項概テ左ノ如シ

一 第八條ノ物件ノ保管ヲナスコト

二 校丁ヲ監督シテ校舍内外ノ取締ヲナスコト

三 接受シタル物件ヲ處理スルコト

四 烈風及變時ニハ特ニ注意シ校舍ノ内外ヲ巡視シ火氣其ノ他火災ノ虞アル器物ノ取締

ヲナスコト

第十條 宿直中接受シタル物件ハ左ノ取扱ヲナスヘシ

一 親展公文書並職員宛私文書及其ノ他ノ物件ハ翌日夫々之ヲ回付シ電報其ノ他急速ヲ要スト認メ得ヘキモノハ直ニ宛名ノモノニ送達スヘシ

二 親展ニアラサル公文書ハ直ニ開封シ夫々處理スヘシ

第十一條 宿直中非常異變アルトキハ直ニ學校長、教頭、各課長及學校附近所在ノ職員ニ報知シ事急ナルトキハ臨機ノ處置ヲナスヘシ但シ別ニ定ムル非常警備ニ關スル規程ニ準據スヘシ

一六、文書處理及保存規程

第一條 本校ニ到達シタル文書ハ親展其他特定ノモノヲ除キ庶務課ニ於テ開封シ文書件名

簿ニ其件名年月日及發信者ヲ記シ主務課ニ送付シ認印ヲ徵スヘシ

主務課ニ於テハ收受文書ニ收受年月日及課名ノ一字及受付番號ヲ附シ之ヲ處理スヘシ發送文書ニ就テモ亦同シ

○文書處理及保存規程

四七

番號ハ學年ノ始メニ起リ學年ノ終リニ止メ其番號ノ首ニ(大正年度)ヲ附ス但シ文書ノ完結ニ至ルマテ同一番號ヲ附スヘシ

例規トナルヘキ訓令及通牒等ハ主務課ニ於テ其謄本ヲ作り原本ハ速ニ庶務課ニ返附スヘシ

第二條 收受セル文書ニ就キテハ主務課ハ速ニ起案シ決裁ヲ受クヘシ決裁後ノ文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ其課ニ於テ淨寫校合ノ上回議案ト契印ヲナシ施行年月日、番號ヲ記シ且ツ件名簿ニ記入シ回議案ト共ニ庶務課ニ送付シ官印、校印ノ押捺ヲ求ムヘシ淨寫及校合者ハ其ノ回議案ニ認印ヲ押捺スヘシ

第三條 數課ニ關係アル文書ハ主務課又ハ其關係最モ多キ課ニ於テ處理案ヲ草シ當該課長ノ決裁後他課ニ合議スヘシ

第四條 文書發送ニ際シ親展又ハ書留郵便、至急電報等特別ノ取扱ヲ要スルモノハ主任者ニ於テ其回議案ニ標記スヘシ

第五條 庶務課ニ於テハ郵便發送ニ係ルモノハ郵便發送簿ニ其宛名、年月日、及其件名ヲ

記シ之レカ處理ヲナスヘシ

第六條 使送ニヨル文書ハ各課ニ於テ送付簿ヲ作製シ其宛名、年月日、番號及其件名ヲ記載シテ庶務課ニ送付スヘシ

第七條 左ノ文書ハ主務課長又ハ關係課長限リ處分スヘシ

一 生徒在學證明ニ關シ徵兵事務ニ關係ナキモノ

一 生徒ノ學業成績證明ニ關スルモノ

一 生徒ノ宿所、入退舍及諸届ニ關スルモノ

一 物品ノ支給ニ關スルモノ

一 一定ノ例規ニヨルモノ

前各號ニシテ其性質重大ト認ムルモノハ此ノ限ニアラス

第八條 左ノ文書ハ庶務課ヲ經由セス主務課ニ於テ接受スヘシ

一 教務ニ關シ教官ヨリ提出スル報告書類

一 教官及生徒ヨリ差出ス願届書類

一 入學志願者受験名票

第九條 施行濟又ハ閱覽濟文書ニシテ完結ノモノハ主務課ニ於テ種類別ヲナシ該課件名簿ニ記入ノ上之ヲ編纂シ其冊首ニ番號及索引目錄ヲ付シ必要ノ期間當該課ニ保管スヘシ
前項ノ文書ニシテ當該課ニ於テ保管ノ要ナキニ至リタルトキハ之ヲ庶務課ニ引繼クヘシ
第十條 文書ノ保存ヲ區別シテ永年、十年、五年、一年ノ四種トシ其保存スヘキ書目ハ各課ニ於テ學校長ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第十一條 會計ニ關スル諸帳簿等ハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 保存期限ノ計算ハ文書完結ノ翌年度四月ヨリ起算ス

第十三條 保存文書ハ文書完結ノ日ヨリ學年ヲ以テ分界ス但シ歲入歲出及物品會計ニ關スルモノハ其年度ニ依ル

第十四條 文書ノ保存編次ハ完結ノ前後ニ依リ一事件中ノ文書ノ順番ヲ正シ編綴スヘシ

第十五條 永年保存文書ハ學年若ハ累年ニ其期限アル文書ハ學年ニ編綴スヘシ但シ一年間保存ヲ除ク外ノ文書ハ何レモ其冊首ニ索引目錄ヲ附スヘシ

第十六條 保存文書ニシテ他ノ書目ニ關聯スルモノハ其重キ方ニ編綴シ一方ノ索引ニハ其要旨ヲ記載スヘシ

第十七條 保存期限ヲ經過シタル文書ハ主務課ニ合議シ官印ヲ塗抹シ學校長ノ指揮ニヨリ處分スヘシ

保存期限中ノ文書ニシテ保存ノ必要ナシト認ムルモノ亦前項ニ同シ

第十八條 保存文書ハ庶務課ニ就キ閱覽スヘシ但シ機密文書ハ學校長ノ許可ヲ得タル者ニアラサレハ閱覽スルコトヲ得ス

第十九條 保存文書ヲ借覽ヲ要スル者ハ三日以内ノ期限ヲ以テ庶務課備付ノ貸附簿ニ書目番號、氏名ヲ記載シ捺印スヘシ

第二十條 本規程ニ依リ難キモノハ特ニ學校長ノ許可ヲ經テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第一回入學式學校長訓示

生徒諸子。諸子ハ受験生約七百名カラ選抜サレタ百六十名デアアル。之ハ從來教育ヲ受ケタ學校ノ先生ノ恩ヤ、多年教養ヲ辱クシタ親ノ慈悲ノ賜デアアルガ、諸子ガ平素努力ノ効モ亦與ツテ力アツタノデ、誠ニ御目出度。私ガ諸子ニ要求セント思フコトハ簡單デアアル。諸子ハ小學校カラ中學校ヲ通シテ十年以上、毎週修身ノ教授ヲ受ケテ來タノダカラ、國民道德ノ大義名分モ、實踐道德ノ細節マデ熟知シテ居ル筈デアツテ、私ハ今更之ヲ説クノ必要ヲ認メス。生徒諸子。説クノ必要ヲ認メストイフノハ、國民道德ノ大義名分ヤ、實踐道德ノ細節ガ必要デナイトイフノデハナク、諸子ハ充分ニ熟知シテ居ル筈デアリ、亦實行出來テハナラスト思フカラデアアル。若夫ガナク亦出來ズトアツテハ諸子ガ受ケテ來タ過去十餘年ノ教育ガ無力デアツタカ、但ハ諸子自身ガ眞面目ニ受ケテ來ナカツタトイハチバナラス。私ハ明治カラ大正ニ亘ツテノ教育ガ其様ニ無力ナ教育デハナイト思フシ、亦諸子ガ其様ナ不眞面目トハ信セラレヌ。夫デアアルカラ説クヲ要セストイフノデアアル。唯諸子ガ私ノ管理スル學校デ三年間ヲ費サネバナラヌ當面ノ生活ニ最適切ナ德ヲ示シテ置クニ止マルノデアアル。即簡單ニ質實剛健ノ德ヲ要求スルノデアアル。

生徒諸子。質實剛健ノ字義ハ明白デアアル。内ニ心身ノ實力ヲ充タシテ、外ニ事ニ當ツテ屈セズ息マズ爲シ遂グル力ヲイフノデアアル。夫デ此德ヲ要求スル理由ハ二ツアル。第一ハ、人生ヲ一年ニ喩ヘルト、諸子ハ正ニ春酣ナル時代デアツテ、之カラ盛夏ノ炎熱ヲモ凌ギ落莫タル秋風ニモ耐ヘテ、冬嶺ニ秀ツル松柏ノ晩節ヲ全ウシテ人生ヲ終ルノ實力ヲ大成セネバナラヌ時期ニアルカラデアアル。之ハ諸子ノ状態カライツタノデアアルガ第二ノ理由ハ我國家ノ現状カラデアアル。時ハ丁度宇内ノ大戰亂ヲ了ツテ、列國ガ戦後ノ建テ直シニ競争スル時期デアアル。

生徒諸子。此大戰亂ハ我々ニ如何ナル教訓ヲ與ヘタカ。歲月ヲ閱ミスルコト五年、軍ヲ動かスコト四千萬、人ヲ殺スコト七百餘萬、不具者ヲ出スコト五百餘萬、シテ財ヲ費スコト四千億圓デ、文字通ニ未曾有ノ大戰亂デアツタ。人ハ未經験ノ大事件ニ出會フト、世ノ中ハ大ニ變革スルモノト豫期シ易イモノデアツテ、或ハ宇内永久ノ平和ガ之ニヨツテ定マルト思ツタ人モ多カツタ。成程歴史アツテカラノ大戰亂デアアルカラ、我々ノ一生ニ取ツテノ

大事件ヲアルガ、之ヲ社會ヤ國家ノ様ナ千年萬年デ數ヘル生命ヲ有ツテ居テ其ノ間ニ進化發展シテ居ルモノカラ見タラ、高ガ知レタ四五千萬ノ人類ガ五年間、地球表面ノ一部デ地團駄踏ンテ見タカラトテ、夫デ此ノ千年萬年ノ生命アル社會ヤ國家ニ於ケル人類ノ生存競争ノ大原則ヲ引繰リ返ス丈ノカガ何ウシテ出ヨウゾ。イヤ此戰爭ダツテ其ノ大原則ノ一例證ニシカ過キヌト見ルガ却ツテ正シイノデアアル。私ハ此ノ戰爭ノ最初カラ言ツテ居ル言ガアル。獨逸ノ軍國主義ヲ打破スルノハ結構デアアルガ、之レヲ打破シテル力ハ何デアアルカ。獨逸ガ軍國主義ナラ、之レニ對シテ居ル英國ハ海國主義デハナイカ。論ヨリ證據、五年後ニ出來タ國際聯盟ハ、負ケタ獨逸ノ兵力ヲ制限シタマデ、勝ツタ英米ノ海軍擴張ニハ何ノ制限ヲモ與ヘテ居ラヌ。弱イ民族ニ對シテ自決ノ名ヲ與ヘナガラ、堂々タル人種問題ヲ見事ニ拒絶シテ居ルデハナイカ。歸スル處民族國家ノ強力ノ競争ニシカ過ギヌ。勿論兵力ニノミヨル目前ノ強力ヲ考ヘテ居ツタ軍國主義コソ失敗ニ歸シタガ、民族國家ノ文化ノ實カヲ以テ競争シテル根本ノ事實ハ、此大戦亂ノ前後デ何ニモ變ツテ居ラヌ。イヤ變ツテ居ラヌ丈ケデハナク益激シクナツテ來テ居ル。ソレヤ宇内ノ永久平和ハ誠ニ結構ナコトデ、私

モ之ヲ希望スルコトハ人ニ負ケヌ積ダガ、之ハ一ニ民族ノ強力デ世界ニ永久平和ヲ押賣リシテ居ル様ナ現代ニハ到底望マレヌコトデアツテ、各民族ノ權利丈ガ對等ニ認メラルノミデナク、其ノ認メラルヘキ民族ノ文化ノ程度ガ自然ニ世界文化ノ普及ニヨツテ相近ツイテ、經濟ノ上ニモ、政治ノ上ニモ、學術ノ上ニモ、信仰ノ上ニモ、道德ノ上ニモ相近ツイテ來テカラデナケレバナラヌ。今日ノ様ニ人ガ旅ヲスルニモ、品物ヲ送ルニモ、文化ヤ經濟ノ差ノ爲ニ、國境ニ關所ガアツテ、ヤツト民族ヤ國家ノ安寧幸福ヲ維持シテ居ル様ナ時代ニハトテモ出來ナイノデアアル。夫デアルカラ永久ノ平和ガ得タクバ、民族自身ノ實力ヲ進メテ、而カモ其ノ餘榮ヲ相互ニ他ニモ普及スルノニ吝デナイ様ニ、文化ノ實力ヲ養成シテ行ク以外ニ途ハナイノデアアル。生徒諸子。我帝國ノ歴史ハ誠ニ結構デアツテ、我々ハ日本帝國ノ臣民ニ生レタノヲ人生ノ光榮ト信シテ居ルガ、サテ驕ツテ今日ノ國運ヲ世界ノ文運ノ上ニ較ヘテ見タラ、果シテ如何デアアルカ。生徒諸子。私ガ諸子ニ質實剛健ノ德ヲ要求スルノハ實ニ此點ニアルノデアツテ諸子ノ任亦重クテ、道ハ遠イノデアアル。生徒諸子。諸子ハ此德ヲ修養スルニ如何ナル方法ニヨラントスルカ。諸子ニハ夫々考案モ思ヒ浮ンデ居

ラウガ、私ハ諸子ノ現状カラ考ヘテ、自由、進取、信愛ノ三方法ニヨランコトヲ勸メルノ
デアル。

自由トハ何ノコトカ。行フコトガ自分ノ意志ノ通ニ達セラレテ少シモ障礙ノ無イノヲ自由
トイフノデアル。世ニハ意志ノ通ニ達セラル、コトヲ誤解シテ、何ンデモ自分ノ意志ノ通
リニ行ヘバ必ス達セラル、ト考ヘテ居ル幼稚ナ者ガアルガ、夫ハ我儘テアツテ自由デハナ
イ。意志ノ通ニ行ガ達セラル、ニハ必ズ其丈ノ理由ガナケレハナラス。意志ガ達セラル、
ニハ、其ノ意志ノ決斷ニ其丈ノ原因ガアツテ、其ノ原因ヲ與フルノハ完全ナ思慮デアリ完
全ナ思慮ハ正確ナ理性ノ働ニ待タキハナラス。

生徒諸子。正確ナ理性ガ働イテ思慮ガ完全ニナリ、思慮ガ完全デアルカラ決斷ガ固クナリ
從ツテ行フ事ガ意志通ニ達セラレ、夫デ行ワタ事ニ對シテ責任ガ重ク加ハツテ來ルノデア
ル。生徒諸子。理性ノ發達セナイ子供ヤ理性ノ乏シイ動物ニハ責任ガナク、從ツテ自由ガ
ナイノモ此故デアル。生徒諸子。諸子ハ自分ノ精神ノ發達ノ程度ヲ省ルガヨイ。諸子ノ智
能ハ單純ナ記憶全盛ノ時代ハ過ギ去ツテ、今ヤ理性ノ發達期ニ來テ居ルノデアル。此時期

ニ理性ヲ正確ニ動かス様ニ努力セズ、又出來ヌ様ナ事ガアツテハ何ウシテ將來ノ大成ヲ期
セラレヨウカ。生徒諸子。諸子ハ何事ヲ爲スニモ正確ナル理性ニヨツテ充分ニ思慮シ、夫
デ自ラ決斷シテ自ラ其ノ責ニ任セネハナラス。私ガ諸子ニ第一方法トシテ自由ヲ提唱スル
ノハ此點デアル。

進取トハ何カ。生徒諸子。生活現象ニハ變化ガ始終アル。自分ノ生活ヲ考ヘテ御覽。物質
的ニイツテモ、一呼吸毎ニ身體ヲ構成シテル物質ハ斷エズ新陳代謝シテ、一刻モ同一デナ
イ。又精神ヲ省ミテモ時々刻々ニ意識ガ變轉シテ、靜觀スルコトノ頗ル困難ナコトノ經驗
ハ諸子ニモ充分アラウ。又國家ヤ社會ニシテモ其ノ歴史ハ年々歳々ニ、イヤ時々刻々ニ變
化シテ少シモ止マヌノデアル。之ヲ五十年モ百年モ、千年モ萬年モ同一デアリ、又同一デ
アラネバナラスト考ヘルノハ、健全ナ頭腦ノ所有者ニハ考ヘラレヌコトデアル。生徒諸子
然シ生活現象ハ單ニ變化デアツテハナラス。人ニハ發育ガアリ、衰弱ガアリ、種ニモ變化
ガアリ退化ガアリ、國ニモ盛衰興亡ガアル。夫デ苟モ自分ノ生命ヲ重スル以上ハ進歩發展
ノアル生活デナケレバナラス。

生徒諸子。諸子ハ人生ニ於テ發育進歩ノ最モ盛ナ時期デアツテ我帝國モ亦國運ヲ振張セキバナラヌ時機デアル。夫テアルカラ何事モ單ニ現状ヤ舊態ニ丈満足シテ居ランデ、自分ノ事モ國家ノ事モ始終其ノ將來ノ進歩ヲ考ヘテ、豫メ之ニ對スル考デ計劃シテ行カネバナラヌ。進取トハ實ニ此意味デ必要ナ修養方法デアル。

信愛トハ何カ。生徒諸子。金剛石ハ金剛石デナクレハ琢クナイ。活キタ人物ハ生キタ人物デ砥礪セキバナラヌ。獨房ノ靜觀モ修養ノ一方法デアルガ。其次デハ駄目デアル。人物ヲ相手ニ修養シテ居ラヌト眞ノ人間ニハナレヌ。諸子ハ幸ニ選拔サレタ學生デアツテ、其ガ朝夕一ツノ學校ヤ學寮デ事ヲ共ニシテルノデアル。此間ニ赤裸々ノ僞ノナイ全人格ヲ發露シテ互ニ切磋琢磨シテ行ツテ、眞ニ會心ノ友ヲ得キバナラヌ。夫テアルカラ同學級ナリ、同母校ナリ、同郷ナリ、同信仰ナリ、同趣味ナリデ友ヲ會シ、友ヲ以テ仁ヲ輔ケテ、個人的ニモ團體的ニモ其修養ヲ大成セネバナラヌ。生徒諸子。友ヲ得易イ此時ニスラ友ヲ得ルコトガ出來ヌ様ナ事ガアツテハ將來社會ヘ立ツテハ猶更困難ト思ハネバナラヌ。生徒諸子。私ガ學校長トシテ要求スルノハ、簡單ニ實質剛健ノ徳デアツテ、之ヲ修養スルニ自由、進取、信愛ノ三方法ニヨルコトヲ勸メル。

終ニ諸子ニ一言シタイノハ現今ノ選抜試験制ノ缺點デアル。今日各學校デ入學ニ選抜試験ヲ行ツテルノニ、其問題ノ提出ニ答案ノ調査ニ成績ノ計算ニ凡テ宗全ヲ期シテ、當局者ハ各苦心慘憺シテ居ルガ、教育上カラ高等批評ヲスルト、危險ナ方法デアル。一體人ハ教育進歩シテ行タモノデ、殊ニ諸子ノ如キハ最モ著イ時期ノモノデアル。斯ル者ヲ評價スルノニ入學試験ヲ一時機丈ノ成績ニノミニヨツテ判斷スルコトガ、頗ル不完全デ危險ナル方法トイフノデアル。發育進歩シテル者ハ、其ノ發育進歩ノ速サ、其ノ發育進歩ノ狀勢等ヲ動態的ニ考フベキモノデアツテ、一時機丈ノ靜態デ判斷スルノハ危險デアルノデアル。然シ今日ノ教育學術ノ程度デハ不満足ナガラ、此邊ノ方法デ我慢ヲシテ居ルノデアル。生徒諸子。今回ノ入學試験ニモ本校ノ試験委員ガ答案ノ採點調査成績ノ計算判定ニマデ頗ル苦心ヲシテ萬全ヲ期シタノテアルガ入學試験其物ノ性質カスルモノデアルカラ、諸子ガ實力ノ正當ナ處デ入學出來タノカ、偶然ノ僥倖モアツタノカハ、今後ノ諸子ノ成期ニ徴シテ見ネバナラヌ。生徒諸子。諸子ハ約七百人中ノ四分ノ一以内ニ入ツタトテ、決シテ油斷シテハナラヌ。諸子ノ眞價ハ今後デアル。私ハ諸子ガ私ノ要求ト勸告トヲ充分ニ理解シテ吳レタ事ト信ズル。

新潟高等学校校友會規則

第一條 本會ノ目的ハ會員ノ心身ヲ鍊磨シ併セテ其ノ和衷協同ヲ謀ルニアリ

第二條 本會ハ新潟高等學校校友會ト稱ス

第三條 本會會員ハ左ノ二種トス

特別會員 本校職員

通常會員 本校生徒

第四條 通常會員ハ會費トシテ一箇年金九圓ヲ納ムルモノトス但シ第一期ハ金五圓第二期

ハ金四圓トシ授業料ト同時ニ納付スルモノトス

第五條 通常會員ハ入會ノ際入會金五圓ヲ第一期分會費ト共ニ納付スルモノトス

第六條 特別會員ハ會費トシテ毎月年俸給月額或ハ月俸ノ百五十分ノ一ヲ納ムルモノトス

第七條 本會ニ左ノ十七部ヲ置ク

- 總務部
- 圖書部
- 文藝部
- 辯論部
- 柔道部
- 劍道部
- 弓道部
- 水泳部
- 庭球部
- 野球部
- 陸上競技部
- 蹴球部
- 籠球部
- 相撲部
- スキー部
- 旅行部
- 購買部

第八條 總務部ハ本會各部ノ庶務並ニ會計ヲ總べ各部ハ本會ガ目的ヲ達スル爲ニ必要ナル諸種ノ事業ヲ分担ス

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長 一名 本校々長ヲ推ス
- 副會長 一名 本校教頭ヲ推ス
- 部長 各一名 特別會員中ニツキ會長之ヲ委囑ス
- 副部長 若干名 同
- 理事 一名 同
- 出納係 若干名 同
- 庶務係 若干名 同

各部委員 若干名 通常會員ノ互選ニ係ル候補者ノ中ニツキ部長之ヲ委囑ス

學級代議員 各學級ヨリ選出セラレタルモノ各二名

第十條 會長ハ本會ヲ總理ス

第十一條 副會長ハ會長ヲ輔佐シ總務部長ヲ兼テ會長事故アルトキハ之ニ代ル

第十二條 部長ハ當該部ヲ總理ス

第十三條 副部長ハ部長ヲ輔佐ス

第十四條 理事ハ總務部長ヲ輔佐シ出納係庶務係ヲ監督ス

第十五條 出納係ハ本會ノ金錢出納ヲ掌リ庶務係ハ本會ノ庶務一切ヲ掌ル

第十六條 委員ハ當該部ノ庶務及會計ヲ處理ス

第十七條 各部豫算及年中行事ハ部長及副部長ノ指導ノ下ニ委員之ヲ編成ス

第十八條 役員會ハ規則ノ改正豫算ノ決定決算ノ審査其他重要ナル事項ニツキ協議ス

但シ豫算ノ決定決算ノ審査ニツイテハ第二十條ノ場合ノ外ハ各部委員ハ協議ニ加ハルコトヲ得ス

前項協議ノ結果ハ會長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第十九條 生徒役員會ハ會長ノ許可ヲ經テ總務部長之ヲ召集ス

第二十條 總務部委員ノ中一名ハ生徒役員會ニ於テ議長トナリ議事ノ進行ヲ計ル

但シ豫算ノ決定、決算ノ審査ニツイテハ議長ハ賛否同數ノ場合ノ外ハ票決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十一條 學級代議員ハ各部委員タルコトヲ得ス

第二十二條 部長、副部長、理事、出納係、庶務係、各部委員、學級代議員ノ任期ハ各一箇年トシ毎年十二月中ニ交代ス

第二十三條 學級代議員ハ第一學年ニアリテハ十二月正式選舉アルマデ第一學期ニ於テハ假總代、第二學期ニ於テハ總代ヲ以テ之ニ充ツ

附 則

第二十四條 各部ノ事業項目ハ部長ニ於テ時ニ増減スルコトアルヘシ

第二十五條 本會會計ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十六條 本會各部ノ細則ハ各部ニ於テ之ヲ定メ會長ノ決裁ヲ受クヘシ

新潟高等學校校友會々計規程

第一條 校友會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
會計年度ニ關スル收入支出ノ出納ハ翌年度五月三十一日迄ニ完結セシム

第二條 本會收入支出豫算案ハ前年度ノ一月中ニ編成ス

第三條 本會々計ノ豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ經常部支出ハ之ヲ總務部費、乃至
購買部費及豫備費ノ十八款ニ區別ス

第四條 豫備費ハ收入豫算金額ノ百分ノ五以上十以內トシ他ノ各款ニ於ケル已ムナキ豫算
ノ不足ニ備フ

第五條 豫算殘餘ハ本會ノ基本金ニ編入ス但シ場合ニヨリ各部長ノ協議ノ上其ノ一部若ハ
全部ヲ翌年度ノ豫算ニ編入スルコトアルヘシ

第六條 已ムヲ得サル事故ニ依リ豫算ノ不足ヲ生シタル場合ニハ各部協議ノ上臨機追加豫
算ヲ編成シ之ヲ補フコトアルヘシ

第七條 本會ハ會費ノ全部人會金總額ノ四分ノ三寄附金及基本金ヨリ生スル利子ヲ以テ歳
入トス

第八條 豫算編成後ニ於テ寄附金ノ申込ヲ受ケタルトキハ各部協議ノ上之ヲ處置ス

第九條 各部委員ニ於テ所定ノ經費ヲ使用セントスルトキハ其ノ都度部長宛支拂請求書ヲ
發スヘシ

第十條 各部間ニ於テ已ムヲ得ス豫算額ヲ流用セントスルトキハ關係役員相互ノ諒解ヲ經
テ總務部長ノ承認ヲ受クヘシ

第十一條 同一部内ノ各項間ニ於ケル豫算額ノ流用ハ部長ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條 各部ニ於テ豫備費ヲ使用セントスルトキハ總務部長ヲ經テ會長ノ承認ヲ受クヘ
シ

第十三條 各部長委員ハ其ノ部ノ決算報告書ヲ翌年度五月末日ニ部長ニ差出スヘシ各部長
ハ承認ノ上之ヲ總務部長ニ回付スルモノトス

第十四條 總務部ハ各部ヨリ提出スル決算報告書ヲ取纏メテ會計原簿ト比較審査シ翌年六

月末日迄ニ全決等報告書ヲ調成シテ之ヲ公表スヘシ

第十五條 總務部ハ翌年度六月末日迄ニ各部ニ於ケル備品ノ審査ヲナスヘシ

第十六條 各部委員ハ各部ニ關スル會計簿、物品原簿、物品出納簿ヲ整理保管シ毎年七月

及十二月中ニ此等ノ帳簿ヲ部長ヘ差出シ該期間ニ於ケル狀況ノ檢閲ヲ受クヘシ

第十七條 出納係ハ物品原簿、現金出納簿、會費收入簿、支拂請求書綴及受取證綴ヲ整理

保管シ各年度末ニ於テ總務部長ノ檢閲ヲ受クヘシ

第十八條 基本金ノ財源ハ左記各項ノ一ニ當ルモノヲ以テス

一 通常會員入會金總額ノ四分ノ一

二 基本金トシテ特ニ指定セラレタル寄附金

三 豫等殘額

第十九條 基本金ハ一切經常費ニ編入セサルモノトス但シ基本金ヨリ生ヌル利子ハ之ヲ通
常會計ニ編入ス

職員 (定員)

校長一人 教授二十五人
助教授三人 書記六人

學年始現在

學校長

文學士 八田三喜 石川

教授

修身

文學士 八田三喜 石川

數字

教頭 數學科主任

理學士 松井喜三郎 神奈川

英語

評議員 英語科主任

文學士 西川巖 石川

獨語

評議員 獨逸語科主任

文學士 横山良盛 宮崎

物理學、自然科

物理科主任

理學士 田中務 福岡

圖書

庶務課長 圖書科主任

工學士 藤田猪太郎 愛知

在外研究員

文學士 宮本和吉 山形

植物、動物
自然科學

生徒監 動物植物地
理科一年乙類
評議員 續科主任

理學士 眞保一輔 新潟

○職

員

六八

修身、獨語

生徒課長

哲學科主任

文學士

岡部龍玄

富山

歷史

教務課長

歷史地理科主

文學士

安藤祐專

愛知

歷史、漢文

文科二學年乙類
主 任

文學士

鳥山喜一

東京

漢文

圖書課長

國語漢文科主

文學士

手塚良道

愛知

英語

(米國アンヌアソン大學)
マスタ、オ
ヅウアアツ

文學士

廣政幸助

山口

英語

文科二學年甲類
主 任

文學士

片江秀雄

佐賀

心理、論理、獨語

文科一學年甲類
主 任

文學士

黒田 亮

新潟

化學、自然科學

化學科主任

理科二學年乙類
主 任

理學士

坂部重壽

山形

獨語

理科三學年甲類
主 任

文學士

朝日方圓

福井

化學

理科一學年甲類
主 任

理學士

小林文平

新潟

地理、自然科學
地質礦物

理科一學年甲類
主 任

理學士

徳重英助

福岡

物理、數學

理科三學年乙類
主 任

理學士

工藤孫八郎

岩手

國語

文科一學年乙類
主 任

文學士

羽烏芳雄

東京

哲學、獨語
自然科學

文科一學年乙類
主 任

文學士

赤松元通

大畷

獨語

理科二學年甲類
主 任

文學士

湯淺政則

石川

法制經濟

文科二學年甲類
主 任

文學士

竹内長政

福井

助教

體操

勤務課生徒課
勤 務

松木鐵太郎

新潟

圖書課主任

陸軍歩
兵伍長

酒井千尋

新潟

講

師(就職願)

獨語

○職

員

ヨセフ、ヂートリツヒ

獨逸國

六九

○職員

七〇

圖書

新潟師範
學校教諭

諸橋政範

新潟

體操

体操科主任

勤務課生徒課

陸軍歩兵
特務曹長

本間侃雄

新潟

國語、漢文

理學士

宿利豊平

熊本

數學

富田準市

愛知

備外國人教師

英語

マスタオ
ヴァアツ

ビ、エー、コーツ

英國

書記

(兼)助教授

酒井千尋

新潟

物品會計官吏
陸軍歩兵
會計主任
軍曹

小山徳吉

新潟

生徒課主任
海軍一等
機關兵曹

入山八隆

新潟

勤務課主任

貝沼末治

新潟

雇

(就職順)

圖書課主任

齋勝卯一郎

新潟

嘱託庶務主任

稻川喜一郎

新潟

寮務係主任

丸山繁多

新潟

庶務課勤務

青山ヒナ

新潟

動物室勤務

野崎壽

新潟

會計課勤務

田澤時四郎

新潟

會計課勤務

大橋幸三

新潟

動物室勤務

黒井庄平

新潟

化學教務室

川越修三

新潟

學校醫

新潟醫科大學教授
醫學博士

澤田敬義

新潟

○職員

七一

○生徒本籍府縣別表

府縣	第一學年	第二學年	第三學年	計
千葉	一	一	一	三
東京	四	七	五	一六
神奈川	四	二	三	一六
新潟	四	四〇	五八	一〇二
富山	二	二	一	五
石川	二	一	四	七
福井	二	一	一	四
山梨	一	二	一	四
長野	四	二	三	一〇
岐阜	一	一	一	三
靜岡	一	一	一	三
愛知	一	一	一	三
三重	一	一	一	三
滋賀	一	一	一	三
京都	一	一	一	三
合計	一七	五三	七三	一四三

○生徒本籍府縣別表

府縣	學年			計
	第一學年	第二學年	第三學年	
北海道	二	一	一	四
青森	一	一	一	三
岩手	一	一	一	三
宮城	一	一	一	三
秋田	二	一	一	四
山形	三	一	一	五
福島	三	二	二	七
茨城	一	一	一	三
栃木	一	一	一	三
群馬	一	一	一	三
埼玉	一	一	一	三
合計	一七	五三	七三	一四三

生徒本籍府縣別表

(大正十四年四月一日現在)

○生徒本籍府縣別表

計	沖繩	鹿兒島	宮崎	大分	熊本	長崎
八〇		一			二	
八一						
六九						
八二						
六七						一
七三						
二二六		一			二	一
二二六						

○生徒本籍府縣別表

佐賀	福岡	高知	愛媛	香川	徳島	山口	廣島	岡山	鳥取	島根	和歌山	奈良	兵庫	大阪
		一				一	一							一
							一		一					
					二		一		一		一		一	一
一				一	一			一	一		一		一	一
												一	一	
						一			一					
		一			二	一	二		一		一	一	二	二
一				一	一	一	一	一	二	一	一		一	一

○校友會役員

籠球部長
同副部長
相撲部長
スキー部長
旅行部長
購買部長
同副部長
出納係
同
庶務係

生徒委員

文三甲 三崎 道三夫

八〇

片江 教授
松木助 教授
松木助 教授
小林 教授
小林 教授
藤田 教授
松木助 教授
小山 事務員
田澤 事務員
稻川 事務員

文三甲 淺間 武夫

文三乙 堀部 國治
文二甲 瀨賀 卯一
文二乙 松浦 晋二
理三甲 渡邊 義男
理三乙 太田 定次
理二甲 小林 尙一
理二乙 新井 義彦
總務部 △印代表者
文三甲 △羽田 武嗣朗
理三甲 吉田 捷治
圖書部
文三乙 △小島 功一
理三乙 鈴木 宏

○生徒委員

文三乙 岩野 二三
文二甲 梶谷 丈夫
文二乙 桑原 玉市
理三甲 日野 田碩三
理三乙 阿部 良七
理二甲 田川 忠之助
理二乙 伊藤 禎一郎
文三甲 杉崎 久彌
理二甲 田中 義剛
文二甲 松谷 疆
理二甲 清田 丁未

○生徒委員

文・藝部

文三甲 松本千代二

文二甲 熊木啓作

辨論部

文三甲 △大上末廣

文二乙 吉田力三

柔道部

文二乙 薄井友治

理三乙 田中謙吉

剣道部

文三乙 田代五郎

理二甲 △吉田巖

弓道部

理二甲 岩澤薫

文三乙 △長井直二

理二乙 本間亮敬

文二乙 磯部己子太

理三甲 坂井松三郎

理二甲 △吉本忠茂敏

理二乙 關川東平

文二乙 高橋半六郎

理二甲 小山順太郎

理三甲 △岩澤薫

理二乙 山宮壽賀雄

文二乙 伊藤隆夫

理二乙 横山敏男

文二乙 岩本繁司

理二乙 西川元助

理三甲 △會津龍平

理二乙 山本保夫

文二乙 湊元克己

○生徒委員

水泳部

文二乙 吉田力三

理三乙 山賀勇

文三乙 齋藤一雄

理三乙 △岡村正幸

庭球部

文三甲 △山本忠雄

理三乙 山田一郎

野球部

文三乙 佐藤文雄

理二甲 宮澤榮一

陸上競技部

文三乙 △會和敬二

蹴球部
理三乙 渡邊好雄

理三乙 永井武雄

文三乙 千葉保夫

文三乙 安藤正一

理三甲 鎌田敏夫

理二乙 鈴木進

籠球部
文二甲 金井五郎

理三甲 阿部功

理三乙 家田三郎

理二甲 本多深應

相撲部
文三乙 山内榮一

文二乙 坂井正仁

理三甲 田中謙吉

理二甲 松澤敏雄

スキー部

文三甲 小池俊雄

文三乙 坂本周二

文二乙 鈴木勝利

理二乙 柳澤謙

旅行部

文三甲 阿部卓

文二甲 佐々木藤七郎

文二乙 安藤正一

理三甲 梅原達雄

購賣部

文三甲 小池恒雄

文三乙 藍澤惟親

文二甲 國本嘉平次

文二乙 吉田作穂

理三甲 馬場文夫

理三乙 長谷川榮治

理二甲 酒井軍次郎

理二乙 渡部博文

第	一	
二		
三		
四		
五		
六		
七		
八		
九		
十		

學 年	乙								
	理	次田	井上	國文學類選	雜纂篇(成美堂)				
	甲	島田	佐久	高等漢文	論語(育英書院)	孟子抄			
	安井								
	理	同	上						
	乙								

野二甲 國本漢文
 野三甲 國本漢文
 野二乙 國本漢文
 野三乙 國本漢文
 野二丙 國本漢文
 野三丙 國本漢文
 野二丁 國本漢文
 野三丁 國本漢文
 野二戊 國本漢文
 野三戊 國本漢文
 野二己 國本漢文
 野三己 國本漢文
 野二庚 國本漢文
 野三庚 國本漢文
 野二辛 國本漢文
 野三辛 國本漢文
 野二壬 國本漢文
 野三壬 國本漢文
 野二癸 國本漢文
 野三癸 國本漢文

Omura

八五

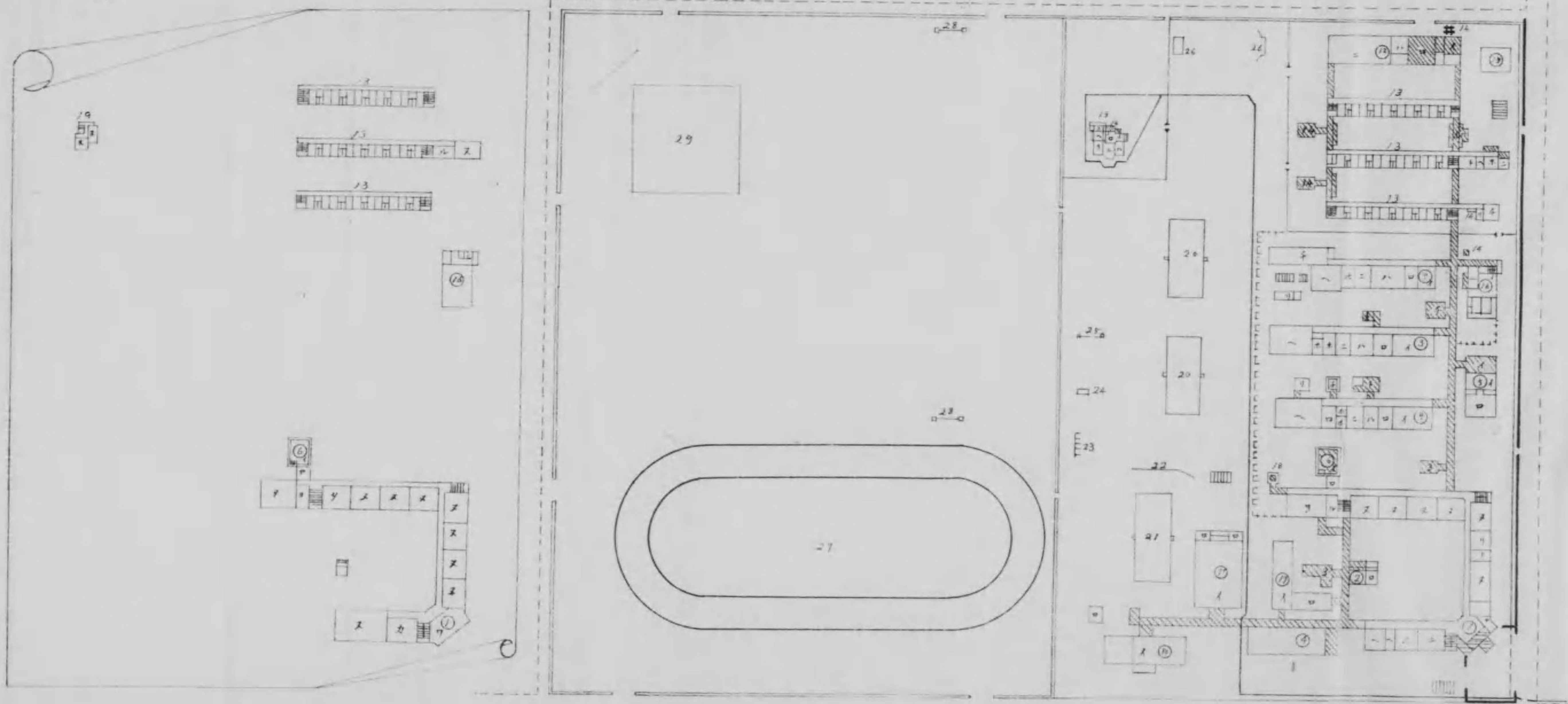
新潟高等學校教科書一覽 (大正十四年度)

	國語及漢文	英語	獨語	數、地、動、法經、心、論、修身	
第三學年	文	島津久基 源氏物語 下卷(中興館)	Pottinger: English Essays (macmillan's pocket classics) Palgrave: Golden Treasury (Everyman Lib) Eliot; Silas marner (Everyman Lib)	Willhelm Ostwald: Unsterblichkeit II (南江堂) 三浦 Meister-Novellen neuerer Erzähler 二卷 (郁文堂)	柯達遜 經濟學 (清水書店) W. S. Hunter, General Psychology (The university of chicago Press chicago ill) Rogers: Short History of Ethics, (macmillan & co)
	甲	同上	Scott: Ivanhoe (macmillan's Pocket classics)	Friedrich Schiller: Die Räuber/Reclam Dilthey: Goethe und die dichterische Phantasie (南山堂) Grillparzer: Das Goldene Vlies (Schöningh) Fr. Schill; er: Yungtrew von Orleans (南江堂)	同上
	乙	同上	Arthur Helps: Essays written in the intervals of Business(丸善) Eliot; Silas Marner (Everyman Lib)	Kleist; Kleists Novellen (南江堂) Hauff; Märchen (Reclam)	庄司彦六 力學 (岩波書店) 五島清太郎 實驗動物學 第一卷(金港堂) Rogers: Short History of Ethics (macmillan & co)
	理	同上	Dickens: A Tale of Two Cities (macmillan's Pocket classics)	Schiller: Die Räuber (Reclam) Dilthey: Goethe und die dichterische Phantasie (南山堂) 片山 Ziegler; der deutsche Student (南江堂) Goethe; Hermann und Dorothea (南江堂)	同上
	甲	同上	Ruskin: Sesame and Lilies (macmillan's Pocket classics) Dickens: Oliver Twist (macmillan's Pocket classics) Watts Dunton: Aylwin (Humphrey milford: World classics)	前谷: Deutsche Heldensagen(南山堂) Paul Heyse: Meisterstücke von Paul Heyse (南山堂)	W. S. Hunter: General Psychology(The university of chicags Press, chlcago, ILL.) Rogers: Short History of Ethics (macmillan & Co.)
	乙	同上	Thackeray: Henry Esmond (Everymans Lib.)	Goethe: Die Wahlverwandtschaften (Reclam) Hilty: Lesen und Beden Keller; Roms und Julia auf dem Dorfe (南江堂) 武田大造 Kollektaneen aus moderner Schriftstellre (南山堂) 一高編 獨逸語讀本 (南江堂)	同上
第二學年	文	福原 次田 栗原 大體學華物語抄(愛華房) 磯谷 温 左傳新抄 (弘道館)	Ruskin: Sesame and Lilies (macmillan's Pocket classics) Dickens: Oliver Twist (macmillan's Pocket classics) Watts Dunton: Aylwin (Humphrey milford: World classics)	前谷: Deutsche Heldensagen(南山堂) Paul Heyse: Meisterstücke von Paul Heyse (南山堂)	W. S. Hunter: General Psychology(The university of chicags Press, chlcago, ILL.) Rogers: Short History of Ethics (macmillan & Co.)
	甲	同上	Thackeray: Henry Esmond (Everymans Lib.)	Goethe: Die Wahlverwandtschaften (Reclam) Hilty: Lesen und Beden Keller; Roms und Julia auf dem Dorfe (南江堂) 武田大造 Kollektaneen aus moderner Schriftstellre (南山堂) 一高編 獨逸語讀本 (南江堂)	同上
	乙	同上	北星堂 Art and Reason (北星堂) Dickens: Oliver Twist (macmillan's Pocket classics)	前山 Aus Schwabs Sagen des Altums (南江堂) B. G. Nibuhr; Griechische Harvengeschichte (郁文堂)	Kikuchi: Analytical Geometry (大日本圖書株式會社) 久保真英 參考心理學 (博文館) Rogers: Short History of Ethics (Macmillan & Co)
	理	同上	Thackeray: Henry Esmond (Everman Lib.)	Goethe: Die Wahlverwandtschaften (Reclam) Hilty: Lesen und Bede Hebbel; Erzählungen und Novelle (南江堂) 一高編: 獨逸語讀本 (南江堂)	同上
	甲	同上	新津米造: British Short Stories (北星堂) Selections from modern Authors (川 翻) B. Shima; Stories from Sexton Blake (丸 善) Select Pieces from Eminent Authors (北星堂)	小立 Modernes Deutsches Lesebuch (南江堂) 佐久間 教科用小文典 (南山堂) 一高編 Fibel (南江堂)	渡邊孫一郎 數學通論大要 (愛華房) Phillip's: Handy-Volume Atlas of the world(E. G. Revenstein F. R. G. S.)
	乙	同上	Sonvestre: An Attic Philosopher in paris (尙文堂)	青木三浦 新編獨逸語讀本 第一卷(郁文堂) 一高編 獨逸語讀本 (南江堂) 佐久間 Neuer Leitaden des Deutschen (南山堂) 杉山 杉山第一讀本 (南山堂) 鈴木 Neuere Märchen Seit Grimm (南山堂) 鈴木 Neues deutsches Lesebuch I. Bd. (南山堂)	同上
第一學年	文	一高編 高等漢文讀本 第一 (共益商社) 次田 井上 國文學類選 戲曲篇(成美堂) 磯谷 温 史記抄 (弘道館)	新津米造: British Short Stories (北星堂) John Bull and His Island (興文社) Select Pices from Eminent Authors (北星堂)	小立 Modernes Deutsches Lesebuch (南江堂) 佐久間 教科用小文典 (南山堂) 一高編 Fibel (南江堂)	渡邊孫一郎 新編高等代數學 (愛華房) Todhunter, Plane Trigonometry (Macmillan & Co.) 小沙隆一 法學通論 (清水書店) 福田德三 經濟學教科書 (同文館)
	甲	同上	Sonvestre: An Attic Philosopher in paris (尙文堂)	青木三浦 新編獨逸語讀本 第一卷(郁文堂) 一高編 獨逸語讀本 (南江堂) 佐久間 Neuer Leitfaden des Deutschen (南山堂) 杉山 杉山第一讀本 (南山堂) 鈴木 Neuere Märchen Seit Grimm (南山堂) 鈴木 Neues deutsches Lesebuch I. Bd. (南山堂)	同上
	乙	同上	新津米造: British Short Stories (北星堂) John Bull and His Island (興文社) Select Pices from Eminent Authors (北星堂)	一高編 Fibel (南江堂) 小立 近代獨逸語讀本 (南江堂) 三浦 獨逸語讀本 (郁文堂)	同上
	理	同上	上井巖吉 Seven Stories of To-day (敬文堂)	青木三浦 新編獨逸語讀本 第一卷(郁文堂) 一高編 獨逸語讀本 (南江堂) 佐久間 Neuer Leitfaden des Deutschen (南山堂) 金田 Deutsches Prosa: 大日本圖書株式會社 杉山 高等漢文讀本 第一卷(南山堂) 鈴木 Neues Deutsches Lesebuch I. Band (南山堂)	同上
	甲	同上	同上	同上	同上
	乙	同上	同上	同上	同上

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

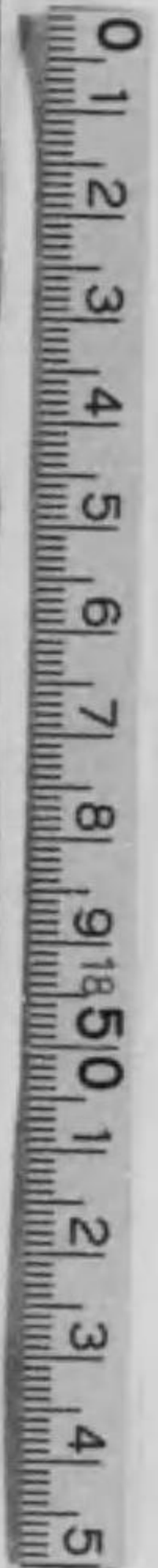
新瀨高等學校略圖

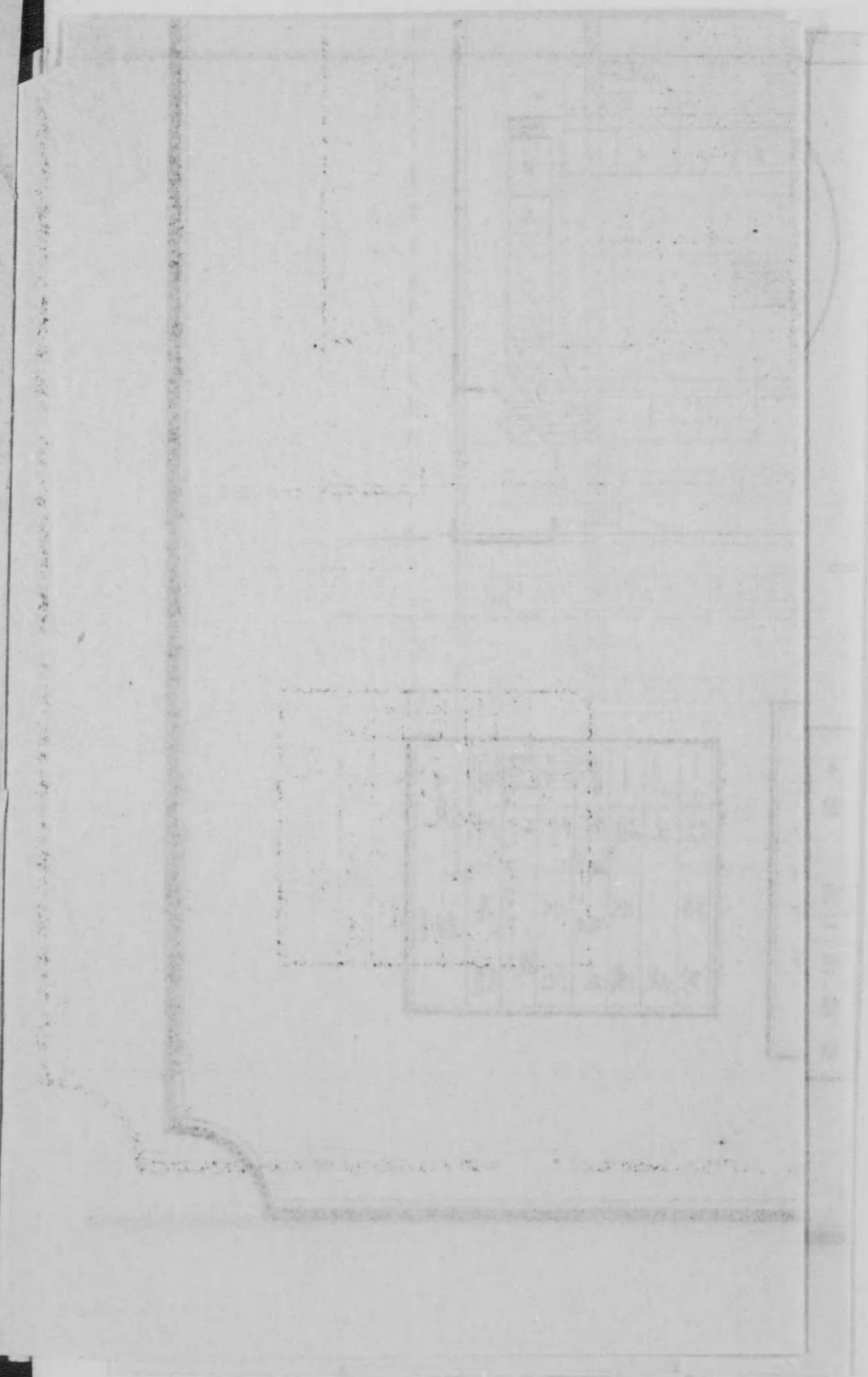
縮尺 $\frac{1}{200}$



數	坪
七坪七十四萬二	地土
二一三坪八十七百九千一	物建
〇五二坪十六百六千二	庭園
在 所	
瀨瀨字町畑大西市瀨新	

34	28	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
蹴球部	野球部	硬球部	軟球部	射擊部	水泳部	田徑部	足球部	排球部	籃球部	劍道部	柔道部	空手道部	相撲部	射擊部	水泳部	田徑部	足球部	排球部	籃球部	劍道部	柔道部	空手道部	相撲部	射擊部
蹴球部	野球部	硬球部	軟球部	射擊部	水泳部	田徑部	足球部	排球部	籃球部	劍道部	柔道部	空手道部	相撲部	射擊部	水泳部	田徑部	足球部	排球部	籃球部	劍道部	柔道部	空手道部	相撲部	射擊部
蹴球部	野球部	硬球部	軟球部	射擊部	水泳部	田徑部	足球部	排球部	籃球部	劍道部	柔道部	空手道部	相撲部	射擊部	水泳部	田徑部	足球部	排球部	籃球部	劍道部	柔道部	空手道部	相撲部	射擊部





大正十四年四月五日印刷
大正十四年四月十日發行

新潟高等學校

新潟市旭町通二番町
(電話一六〇〇番)

印刷者 小林二郎
新潟市東中通一番町

印刷所 小林活版所
新潟市東中通一番町
(電話四〇八番)

終

